

Henry x MacBook Neo

国内初*150台のMacBook Neoで
AI/クラウドネイティブ型電子カルテ「Henry」を採用しました

松山リハビリテーション病院では、この度、AI/クラウドネイティブ型電子カルテ「Henry」を導入するとともに、カルテ端末としてApple社の「MacBook Neo」を全面採用いたしました。院内で使用するカルテ端末のほぼすべてをMacに統一し、医師や看護師が日常業務で直感的に操作できる環境が整いました。「Henry」はブラウザで使うクラウドネイティブの電子カルテのため、院内サーバーが不要で、OSを問わずMacでそのまま使えます。さらに、MacBook Neoのモバイル性や高い電源効率、スムーズな動作によって、外来診療や病棟業務の移動時にもストレスなくカルテを参照・入力できるようになっています。導入から間もない現在でも、スタッフの働き方には大きな変化が見られ、業務効率の向上や患者対応のスピードアップなど、医療現場での利便性が飛躍的に向上しています。

* 株式会社ヘンリーが提供するAI/クラウドネイティブ型電子カルテ・レセコン「Henry」を採用しました。当院は、2026年9月に300床以上の病院向けの提供が始まった「Henry」の導入第一号病院です。
* AppleのMacBook Neoをカルテ標準機として当規模で導入した国内初の病院（当院調べ）



Mac x「Henry」 そこには数字があります

386時間/月*

全役職合計の業務時間削減
（試算）

40分→4分

退院サマリの作成時間

３工程→2工程

看護ラウンドの記録
（録音→入力）

*医療法人正幸会 正幸会病院（56床）における「Henry AI」の実証（2026年4月20日～6月5日）の結果。月約386時間は全職種合計の試算値。看護ラウンドの記録は、従来の「観察→紙にメモ→転記」から「会話を録音→文字起こしと入力」の2工程に。

これらは、「Henry AI」を活用して記録業務を見直した正幸会病院での実績です。当院でも、外来診療録・看護記録・ICなどの記録を音声から作成し、退院サマリーなどの文書も各種記録をもとに作成することで、同様の効果を目指します。また、入力・音声データはAIモデルの学習に利用されず、高度に暗号化された状態で処理されます。





iPhoneも導入。より正確で効率の良い入力業務も実現

「Henry」のカルテは、iPhoneに完全対応した次世代の電子カルテシステムです。病棟看護やリハビリの現場では、「Henry」のモバイルアプリで日常の業務を行えるため、PCが手元にないときでもその場で記録できます。医療従事者が現場で必要な情報に素早くアクセスできるよう設計されており、日々の業務をより効率的かつ安全にサポートします。

・音声入力機能により、看護師のラウンド中でも手軽に記録が可能。
・「Henry AI」により、看護記録やICなどを音声から作成し、入力作業を最小化。
・3点認証により、本人確認や情報の安全性を確保。
・記録作業の効率化と入力ミスの防止を同時に実現。
・医療従事者間でのリアルタイムな情報共有により、チーム連携がスムーズに。

iPhone対応によって、現場での取り回しが容易になり、医療の質と業務の効率を両立できます。「Henry」のカルテは、患者と医療従事者双方に安心と利便性をもたらす革新的なツールです。

地域との連携も病院AX*に繋げます

ICTを導入することで、地域のクリニックとの連携がより円滑かつ効率的に行えるようになります。例えば、診療情報や検査結果の共有がスムーズになり、患者への対応スピードや医療サービスの質の向上に直結します。これにより、地域全体での医療連携が強化され、患者にとっても安心して受診できる環境が整います。

「Henry」の「Henry Gate」は、入院の打診から入院までを一つの流れで扱う機能です。FAXや電話で届く紹介情報を一か所に集められるので、受け入れの判断を早く行えます。地域の急性期病院や診療所からの患者さんをスムーズに受け入れ、回復期リハビリテーション病院として地域医療の連携を支えます。



「Henry Gate」の患者リスト画面（紹介元・ステータス・入院希望日を一覧で管理）

病院のデジタル化は、患者への環境改善につながります

業務の効率化は大切な患者との時間を確保するためにも必要な選択の一手です。
医療従事者の業務効率化は、現代医療においては必須であり、それは病院の従事者のストレスを和らげ、時間外勤務を減らすことは、患者へのケアに集中できることを指します。病院を利用される皆様の満足度にもつながるものと信じています。
「Henry」は、リハビリシステムをはじめとする院内の部門システムとつながります。リハビリの計画・実施の情報がカルテと行き来することで、転記や確認にかかっていた時間を、リハビリやケアなど患者さんと向き合う時間に回します。

